

## 平成24年度第2回北杜市子ども読書活動推進計画策定委員会会議録

- (1) 会議名：平成24年度第2回北杜市子ども読書活動推進計画策定委員会
- (2) 開催日時：平成24年10月23日（火）午後1時30分～午後4時
- (3) 開催場所：北杜市金田一春彦記念図書館 SVホール
- (4) 出席者： 策定委員 安藤 義行／田中 壽弘／柴山 裕子／倉田 弘江  
早川和彦／斎藤 満／田畑 雅宏／田辺 静香／宮川恒雄  
望月 美良／山口 昇／浅川 希久子  
事務局 小林 弘（図書館長） 篠原 美恵・小野 まどか（総務担当）
- (5) 議題：(1) アンケート結果について  
(2) 「北杜市子ども読書活動推進計画（第二次）」の内容検討  
(3) その他
- (6) 協議内容
  - \* 前回の回答の説明
    - ・「H23年度学校図書館利用状況」の生徒数の追加、江戸川区読書科の内容説明、市内・県内・県外のネットワークの説明、長坂中学校の読書活動の表彰について
    - ※別紙参照
  - 1) アンケート結果について
    - \* 事務局より資料についての説明
    - 委員：学校図書館の利用統計で、公共図書館より借り受ける冊数に差があるのはなぜか。
    - 委員（学校図書館司書）：明野中学校の借受冊数が多いのは、学級文庫を作るために、公共図書館から借りているから。  
学校の先生の授業の進め方によって、利用状況が異なる。
    - 委員：長坂中学校の表彰については、成果としてプランに盛り込んでほしい。
    - 委員：県内外のネットワークの利用についての費用はどうなっているのか。
    - 事務局：県ネットについて費用は発生しないが、県外から借り受ける場合は送料がかかる。
    - 委員：中学生は上級生がいると、学校図書館には入りにくいらしい。それが利用が少ない1つの要因かもしれない。
    - 委員：学校図書館、公共図書館のどちらかを利用している場合は、Q3.を「どちらともいえない」に回答していることが考えられる。
    - 委員：中学校の場合には、利用する時間がないことが多い。

2) 「北杜市子ども読書活動推進計画（第二次）」の内容検討

\*事務局より資料についての説明

※項目ごとの検討

**第1章について**

1. 子どもをとりまく環境と子どもの読書環境

委員：5行目の「ひきこもりやいじめ問題が～」は、それだけが原因とはいえないので、削除するか表現を変える。

2. 計画策定の目的

委員：12行目「子どもを取り巻く環境も変化してきており～」の変化はどのような変化か記載した方がいい。

委員：1. 子どもを取り巻く環境と子どもの読書環境にて説明しているので、「1. で記述したように」「前述したように」という記載にする。

3. 計画の対象

委員：高校生の記述が盛り込まれていないなら、対象にする必要はないのでは。

委員：子どもの定義が、0歳から18歳である。

委員：ヤングアダルト（中高生）の蔵書を増やすということも盛り込んだらよい。

委員：学校図書館を盛り込んだ場合、高校にも拘束力があるのか。

委員：拘束力はないが、努力目標となる。上からの押し付けではない。

第一次の須玉の計画では、「財政上の措置」として、「関係する機関は、その役割に応じ、必要な財政上の措置を講ずるよう努めることが肝要」と記述している。これが努力目標となる。

上記以外の意見

委員：呼びかけ的な記述が必要。それぞれの部署に子どもの読書活動を理解してもらいつつ、財政措置も講じてもらえればよい。

呼びかけの記述は、第3章に入れてはどうか。

**第2章について**

委員：メリハリのある記述をする。

取組・成果：～しました。 課題：～していきます。

委員：取組・成果・課題の3項目に分ける。

1. 家庭等における取組・成果および課題

委員：取組 1行目の「保育園や児童館での読み聞かせ」は誰が行っているの

かの記述を追加した方がよい。もっと細かく記載する。

事務局：ボランティア、保育士、図書館司書を追加。

委員：取組 1行目の「図書館の集団利用」はどんな団体が利用しているのかを記述した方がよい。

事務局：保育園、小学校等を追加。

委員：成果および課題 1行目の「子どもが本に触れる機会」について、「おはなし会で」を追加。

委員：家庭と保育園等は別に記載したらどうか。

委員：家庭を重視してほしいという願いをもっと記載してほしい。

委員：「保育園・児童館」「家庭・地域」と、項目を分ける。

委員：ブックスタートにおいては、配布率が100%だが、対象は出生者数か参加者数か。

事務局：参加者数。

委員：ブックスタートは、参加していない人をどうフォローしていくかが課題。

委員：ブックスタートの名称を知らない人もいるので、印象づけるようにPRしていく必要があるのではないかと。広報ややまね便りでPRしてみたらどうか。

事務局：広報ややまね便りでPRしている。

委員：広報ややまね便りは配布されない地域もあるので、ブックスタートの会場でどれだけPRできるか。ボランティアの資質向上も必要。「ボランティアとは」という内容の研修をしてほしい。

## 2. 学校における取組・成果および課題

委員：学校図書館図書標準において、小学校の93.3%を100%にしていくという表現でよいのか。

委員（学校図書館司書）：学校図書館では、単に本が捨てられないのが現状で、それでパーセントが高くなっていることもある。

事務局：どの学校が目標数値に達していないか調査する。

委員：ネットワーク化されれば、もっと蔵書は整理されなくてはならない。

委員（学校図書館司書）：ネットワーク化されれば、どこに本があるかわかるので、もっと整理できる。

委員：学校図書館・公共図書館のネットワーク化において、資料をデータ化し、一元化する予定はあるのか。

事務局：公共図書館のシステムにあわせて学校図書館もネットワーク化する。予定としては、平成25年度、平成26年度くらいに電算化予定。学校図書館と公共図書館が連携すれば、資料の提供がしやすくなる。

- 委員：一元化する予定があるならば、計画に記載してもよいのではないか。
- 委員：資料の電子化（データベース化）も必要なのではないか。すぐには言わないが、将来的に必要なにはなる。電子化していかないと、郷土資料は残っていかない。
- 委員：図書館としての今後の課題となる。
- 委員：共通データベースを作成する必要がある。
- 委員ネットワーク図に、電子化（データベース化）を含めたらよい。
- 委員：成果および課題 1行目の「年齢」は、学校の内容なので、「学年」に変更。  
「このような世代」は「小中学生」に変更。
- 成果および課題 4行目の「また、利用数の～」は「また、学校図書館の利用数の～」に変更。
- 委員：成果に、長坂中学校の受賞も記載する。
- 委員：成果および課題 5行目の「～授業を展開します」は「～授業を展開することが必要です」に変更。
- 委員：学校図書館と公共図書館との区別をはっきり分けて記載する。

### 第3章について

※第1章の検討にて出された、呼びかけの文章を記載する。

委員：障害を持った子どもへの支援・取組を記載する。

### 3) その他

委員：学校図書館は常任か。また司書教諭は読書にかかわっているのか。

委員（学校図書館司書）：学校図書館司書は常任。学校にもよるが、北杜市は学級数も少なく、ほとんど司書教諭はいない。

委員：僻地への対応も必要（移動図書館等）

委員：すべての子どもが図書館に行けるわけではないので、こういった状況を改善するための環境を整えていく必要がある。文言として盛り込む。

審議会等で指名する2人以上の署名

委員 \_\_\_\_\_

委員 \_\_\_\_\_